りんりんふぇす2014
記念冊子

THE BIG ISSUE Support Live vol.5

2014年12月7日(日) 東京 外苑前 **梅窓院 祖師堂**（そしどう）

開場 14:00／開演 14:30／前売：2,500円／当日：3,000円(BIG ISSUE代 350円含)

5周年に寄せて

寺尾 紗穂

　アーティストオファーというのはなかなかしんどい。5年間を振り返って不思議にすんなり決まった年もあったが、毎年これが決まらないとフライヤーが作れないというプレッシャーの中で思うように進まず、しんどさが押し寄せることもある。まず、お願いしたいアーティストに手紙と企画書を出す。しかし、そもそも無報酬のイベントで、半年先の土曜や日曜の予定を開けておいてくれという依頼自体、きわめて難しいもので、無報酬という時点で受けられないと言われることもある。むしろそうやって即答されるのは有難い方で、半年近く返答を延ばされて断られることも一度ならずある。そんな状況だと二つ返事で受けてくださる方が神様に見える。しかし、無報酬でもあり、基本は一度出演いただいたらしばらくは頼めない。そういう意味でもじわじわと人選が難しくなっていく。

　今回ベテラン勢を巻き込めなかったのは、そういう苦戦の結果ではあるけれども、幾人ものアーティストが「趣旨には共感する。予定があったら来年は是非出たい」と言ってくれたのがせめてもの救いだ。今回初の開催月となった12月というのはそれぞれに年末恒例のイベントが入っていることなどが多いのだが、その中で快く今回参加してくれる5組に改めて感謝したい。貧困問題がもはや若者や子どもの問題と言われる昨今、5周年という節目の年にフレッシュなアーティストで、若いお客さんを沢山迎えて開催できる、ビッグイシューを知ってもらえるというのは、とっても嬉しいことでもある。

　りんりんふぇす実行委員会にも参加してもらっている認定ＮＰＯ法人もやいの稲葉さんとここ二年ほど、講演とライブのコラボをさせて頂いている。稲葉さんがその講演の中で原発の問題に触れ、東電を悪者にして終わらせることはできない、というくだりの中で、「チッソは私であった」という緒方正人さんの著書のタイトルを紹介されたことがあった。それは、自分の中の加害から目をそらさぬこと、誰かを犠牲にするシステムに組み込まれて生きていることを自覚すること。その時はそんなことを思い、頭でわかったつもりになっていた。

水俣病について教科書的な知識しかなかった私が、石牟禮道子『苦海浄土』という本を読み始めたのは最近のことだ。私の音楽を好きでいてくれる知人の二人が相次いで、石牟禮さんの世界に繋がっていると思う、と勧めてくれたのだ。そこには生々しい水俣の現実が、土地の言葉で記されていた。

> 奇病のもんばかりが苦労が荷負うとるごつ思うな。オレ共がふところも、どれだけ傷　むか。アカの他人の有難くも思わんもんどもの為に。市民の銭ぞ。生活保護は。市民がな。出し被りよる訳ぞ、水俣病のもんどもに。

水俣病を抱え込んだ水俣の市民たちは故郷の汚染に怒り、患者の抱えた悲惨に寄り添ったのではないか。理由もなく、そんなイメージを持っていた私は、この水俣市民対水俣病患者という極めて生々しい対立にじむセリフに、恐ろしくなった。あいつは補償金もらってて生活も豊かなんだから生活保護を取り消せ、そんな投書も役所にあったという。水銀を垂れ流したチッソは、町の誇り、文明の証、地域の発展を約束してくれる存在だった。貧乏な漁民が腐った魚食べ過ぎて病気になったのだ、そんな視線が水俣市にあふれていたのだという。

石牟禮さんは言う。

> 言われなき差別というけれど、差別の湧いてくる源はもっとも虐げられるものたち同士のよるべなき怨念の間から立ちのぼるのであり、差別のいわれほど深く救いがたいものはない。

同じような境遇の者が、少しの違いを見つけては、相手をこき下ろし、引きずり落とすことでわずかの優越感を守ろうとする。「市民の銭ぞ。生活保護は」かつて水俣で満ちた呪詛の言葉は、今、標準語となって日本全体に広がった。

デビューしてから8年近く、ずっと福岡の地から応援してくれているファンの方がいる。先日その人から大きめの封筒が届いた。中には「声なきブルースの町　さんや」という1969年の『ニューミュージックマガジン』4月号掲載の中村とうようさんの書いた記事のコピーが入っていた。そこには、69年の2月に神田のＹＭＣＡホールで開かれた岡林信康さんの言葉が載っていた。

ぼく山谷でいろんな奴とつきおうてみてわかったんですけども、戦争で家やられた人や工場がつぶれて失業した人、それに農家から出稼ぎに来て住みついてしもた人――マァとにかくギセイ者が多いんですね。そやから、山谷の人夫チャンを必要としてる世の中の仕組みが悪いんか、落ちてく人が悪いんかいうたら、俺は仕組みのほうが悪いんちゃうか思いまんね。

工事現場や原発労働など「人夫チャン」を必要する「仕組み」は、派遣労働という形ですでに身近なものとなった。

だけど俺たちゃ泣かないぜ
働く俺たちの世の中が
きっと、きっとくるさ、そのうちに
その日は泣こうぜ、うれし泣き
（岡林信康「山谷ブルース」）

りんりんふぇすって、政治色敢えて薄めてるんですか、と最近聞かれた。私は、薄める必要がなかった、と答えた。薄めるものでも足すものでもなかった。りんりんふぇすを生んだ種は私と坂本さんという元日雇い労働者のおじさんとの出会いそのもので、間違えても政治ではなかったから。

りんりんふぇすには色んな人に集まってほしかった。そして会場のどこかで、私が坂本さんと出会ったようなささやかな、でも大切な出会いが生まれることを期待していた。10年続けてそんな出会いが一つでも生まれたら嬉しい、と思っていた。岡林さんが「きっとくるさ」って歌った「俺たちの世の中」について、私は「きっとくるさ」とは歌えない。

でも、たくさんの人と、日の差す方向を向いていたい。
夢をみたい、と思う。
ぼんやりと、ではなく、背をのばして。

折り返し地点までりんりんふぇすを支えてくださったすべての方、そして今日集まってくれたすべての方に。ご来場ありがとうございます。

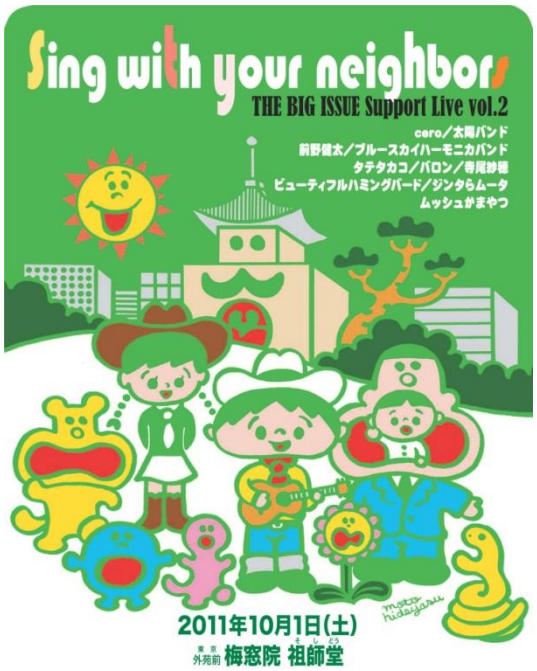
2014年12月　寺尾紗穂

これまでの軌跡①

Sing with your neighbors

THE BIG ISSUE support live vol.2

2011年10月1日(土)／梅窓院／来場者 約250人



フライヤーデザイン／本秀康

●ツイッターでの反応

今日の梅窓院でのビックイシューサポートのライヴ、面子がすごい良いのは勿論、ビックイシューの新しい号が付いて、おにぎりも配っていて2000円はすごいお得感高いイベントだ!!

ビックイシューイベントで今まで知らなかったホームレスの人達の事情が知れて、知らなかったバンドも知れて、よかったな。

浅草の路上バンド「ブルースカイハーモニカバンド」観れてよかった。ミュージシャンやバンドマンは皆、一度はあのおじさんたちを体験するべきだと思う。音楽は気持ちでやるんだって教えてくれる。

●当日の写真

これまでの軌跡②

りんりんふぇす（改称）

Sing with your neighbors
THE BIG ISSUE support live vol.3
2012年10月6日(土)／梅窓院／来場者 約200人

●当日の写真

●ツイッターでの反応

寺尾さんのピアノと歌に合わせてホームレスの方が自由な表現で踊る場面は美しくて潤みました。ビッグイシュー販売員で馴染のおじさんがいるので、次はこのフェスの事話してみようと思います。

りんりんふぇすの座談会、若年層ホームレスのはなし。知らなかったことたくさん。屋根があれば、部屋があればいいんじゃないんだな。ルーフレスでもハウスレスでもなくて、ホームレス。

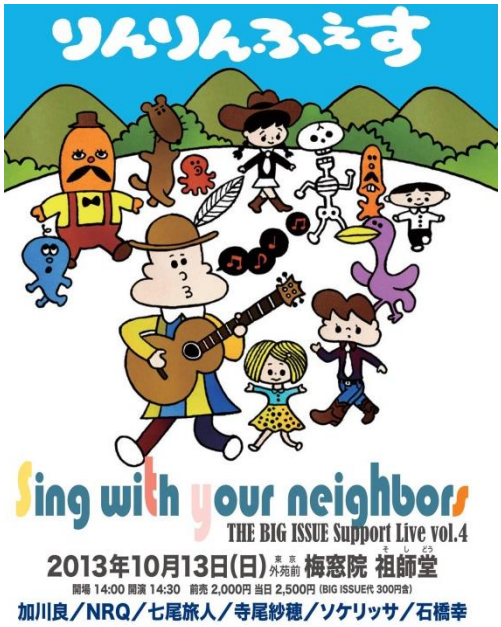
駅から降りて、りんりんふぇすの会場まで行く道すがら、案内看板を持っているビッグイシューの販売さんがいた。話しかけて、二言三言会話をしたが、言えなかった言葉を呟きます。「ありがとう！迷わず来れました」

フライヤーデザイン／本秀康

これまでの軌跡③

りんりんふぇす２０１３

Sing with your neighbors
THE BIG ISSUE support live vol.4
2013年10月13日(日)／梅窓院／来場者 約200人



フライヤーデザイン／本秀康

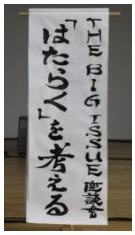
●ツイッターでの反応

仕事を見直す多彩な視点。自立生活サポートセンター「もやい」で働いている小野寺さんの笑顔と声がとても美しい。仕事をしている自分にはない笑顔。仕事、生活、人生、幸せ、人とのつながり、について、ちょっと考えてしまった

ソケリッサという路上生活者及び路上生活経験者によるダンスグループ。暗黒舞踏のようで目が離せなかった。涅槃を超えて極楽浄土に行ったら、こういう具合に人々が踊ってるのでは？と思えてならない

１才娘と二人で行った。娘の昼寝時間と重なり久々にゆっくり聞けた寺尾さんの歌で浄化された。七尾旅人さんのライブ時は起きた娘が遊んだりちょっと騒いだが、ステージから「子供が泣いてもいい」と言っておられて穏やかな気持ちでいられた。

●当日の写真



有限会社
ビッグイシュー日本

ビッグイシューはホームレスの人々にモノやおカネではなく「チャンス」を提供する事業です。

『ビッグイシュー日本版』という質の高い雑誌をつくり、ホームレス状態にある人の独占販売とすることで、「ホームレスの人しかできない仕事」をつくっています。

1991年にロンドンで生まれ、日本では2003年9月に創刊しました。しくみは、『ビッグイシュー日本版』をホームレスである販売者が街頭で販売します。1冊350円の雑誌を売ると半分以上の180円が彼らの収入となります。最初10冊は無料で提供し、その売り上げ（3,500円）を元手に、1冊170円で仕入れていただきます。

社会問題の当事者になった人がその問題解決の担い手になって初めて、その社会問題は解決されると私たちは考えています。販売者となった人たちは私たちのビジネスパートナー。このような考えで、私たちは日本を居心地のいい、チャンス「豊かな」社会に、そして安心して生きられる社会に変えたいと思っています。

街角でビッグイシュー販売者を見かけたら、ぜひお声をかけてみてください。

【URL】www.bigissue.jp
【本社】〒530-0003 大阪市北区堂島2-3-2 堂北ビル4階【TEL】06-6344-2260
【東京事務所】〒162-0065 新宿区住吉町8-5シンカイビル201号室【TEL】03-6802-6078

認定NPO法人
ビッグイシュー基金

『ビッグイシュー基金』とは、有限会社ビッグイシュー日本を母体に設立された非営利団体です。ビッグイシュー日本版創刊から約4年後の2007年に設立されました。ビッグイシュー日本の活動を通して、ホームレスの人々の自立には、就業を含めた総合的なサポートが必要であると考えたからです。

2008年4月にNPO法人の認証を、2011年には国税局から認定を受けました。これによりNPOビッグイシュー基金への寄付は税控除が受けられるようになりました。 貧困問題という大きな氷山の頂点ともいえるホームレス問題の解決から取り組むことで、ビッグイシュー基金は、「失敗しても何度でも再チャレンジできる」「誰もに居場所と出番がある」社会の形成を目標として活動しています。

生活自立、就業、文化・スポーツ活動などの多面的なサポート事業を行うほか、生きやすい社会をととのえるため、ホームレス問題解決のネットワークづくりや政策提言活動や市民が活動に参加する機会の提供などを行っています。

ホームレス問題は、今、あなたのすぐ隣で起きている出来事です。そして、ホームレスという人種はどこにもいません。ホームレス状態におかれている人がいるだけなのです。

まず、路上で暮らす「人生をあきらめない」人たちの声に、耳を傾けてみてください。そして、生きやすい社会をつくるために、一人ひとりができることを一緒に考えてみませんか？

【URL】www.bigissue.or.jp
【事務局本部】〒530-0003大阪市北区堂島2-3-2 堂北ビル4階 【TEL】06-6345-1517
【東京事務所】〒162-0065新宿区住吉町8-5シンカイビル201号室 【TEL】03-6380-5088

認定NPO法人
自立生活サポートセンター・もやい

つながりの中で生きるために

　経済的に貧しく人間関係においても孤立している…。人間関係の貧困を象徴する「アパートに入居したくても連帯保証人がいない」という問題は、ホームレス状態からの自立を妨げる大きな要因です。

〈もやい〉では、アパート入居に際し連帯保証人を引き受けると共に、共通の課題を抱える当事者同士の交流を通じて、社会的な孤立状態の解消を目指しています。人間関係を新しく紡ぎ、安心して地域社会での生活を築き、「困った時はお互い様」と言えるつながりを作るための活動を行っています。「自立」とは、ひとりで生きることではなく、つながりの中で生きること…それが私たちの活動指針であり、理念です。

～活動内容～

入居支援事業

　路上・公園・施設・病院など広い意味でのホームレス状態にある方がアパートでの生活を始めるにあたり、賃貸借契約時の連帯保証人や緊急連絡先の引き受けをおこなっています。

生活相談・支援事業

　毎週火曜日には事務所で面談による相談に応じています（面談無料）。また、毎週火曜日と金曜日に「もやいホットライン」を開設し、生活に困窮している人々のさまざまな相談に応じています。

交流事業　～居場所づくり～

　誰でも気軽に立ち寄れる「寄り場」として交流サロン「サロン・ド・カフェ こもれび」をはじめ、さまざまな居場所を定期的に開いています。

「コーヒー焙煎プロジェクト」では、いろいろな境遇にあるメンバー達で、フェアトレードコーヒー「こもれびコーヒー」の焙煎・販売にも取り組んでいます。丁寧なハンドピックにより厳選された豆の味わいを、是非ご賞味下さい。

広報・啓発事業

　地方自治体などの公的機関に対し社会的弱者である当事者の立場から提言を行ったり、ニュースレターやウェブサイトなどを通じて情報発信を行います。また、学校や地域での講演・啓発活動も積極的に行っています。

特定非営利活動法人
自立生活サポートセンター・もやい
〈事務所〉〒162-0814　東京都新宿区新小川町7-7　アゼリアビル202号室
【TEL】03-3266-5744（火・金）
【URL】http://www.moyai.net/

資金カンパを随時受け付けております。クレジットカードのご利用も可能になりました。詳しくはホームページをご覧下さい。

社会慈業委員会
ひとさじの会

わたしたちひとさじの会は、2009年4月7日に浄土宗僧侶が設立したお念仏の信仰をもって社会的弱者の支援を行う団体です。浄土宗がかつて「社会事業宗」と呼ばれていたことにちなみ、「慈」の字を入れて正式名称を「社会慈業委員会」とし、法然上人の伝記にある、上人が重湯を路上の病人に一さじずつ口元に運ぶ姿に学び、会の通称を「ひとさじの会」と命名しました。

◇活動内容

① 生活困窮状態の方の葬送支援、及び追悼法要
② 浅草における炊き出し・夜回り配食・医療品の配布
③ 定例会（毎月）・勉強会・講演会など
④ 寺院による米支援の呼びかけ　－災害用備蓄米・古米の活用推進－
⑤ 寺院・僧侶による社会的弱者支援のモデルづくり
⑥ 東北被災地支援活動　－祈りの道プロジェクト・子ども会・仮設カフェ－
⑦ プチ修行　－お坊さんと一緒に念仏を称える為先会－

◇ボランティアの募集　―心をこめてむすびます―

ひとさじの会では、自分たちでご飯を炊いて、ひとつひとつ丁寧におむすびをつくってお配りし、より多くの人とのご縁を「むすんで」いきたいと考えています。この活動にボランティアとして一緒に活動していただける方、ぜひご連絡ください。よろしくお願い申し上げます。

活動日程：毎月第1、第3月曜日（炊飯15:00～ 配食20:00～22:00）
配食集合：浅草吾妻橋たもとの交番付近
連絡先：090-6115-8147　吉水岳彦（代表）

【URL】hitosaji.jp　【E-mail】hitosaji@son.petit.cc

祈りの道 気仙三十三観音霊場
復興プロジェクト

◇活動趣旨

気仙三十三観音霊場も、東日本大震災において、9つの霊場が津波の被害を受けました。お堂や管理者の住居が被災したり、観音像が流されたりと被害の程度は様々です。

ひとさじの会では、人々の心のよりどころである観音霊場を再興し、地元の多くの方々に、亡くなった方々の慰霊のため、そして、ご自身の心の安寧を祈るためにお参りを頂きたい、また、全国の方々にお参り頂き、地域の活性化に少しでも寄与したいと考え、「祈りの道　気仙三十三観音再興プロジェクト」を始動させました。現在まで、①霊場マップの発行、②霊場HP作成、③朱印・納経用紙の作成、④講演会の実施、⑤徒歩巡礼道の整備を行って参りました。活動の詳細につきましては、下記のHPをご覧頂ければ幸いです。

◇気仙三十三観音霊場とは

観世音菩薩とは、衆生の苦しい悲しいという声を聞き、それぞれの人にあった姿に変化して、悩み・苦しみを救い、願い事を叶えてくれるという仏さまです。観音霊場の巡拝は、平安時代に始まったと伝えられますが、岩手県の陸前高田市、大船渡市、住田町のいわゆる気仙地域にも、江戸時代半ばの享保三（1718）年、高田村の検断役佐々木三郎左右衛門知則が、父母の追善供養のために選定し、「気仙三十三観音霊場」が開かれました。平安時代、征夷大将軍として東北に派遣された、坂上田村麻呂に関わる伝説を持つ「気仙三観音」や、江戸時代に東北の大富豪として名を馳せた稲子澤家がお祀りしていた百一観音など、様々な物語を抱え持ったたいへん興味深い霊場です。ぜひ、気仙の観音様をお参り頂きたく存じます。

【URL】kesenkannon.jimdo.com　【E-mail】hitosaji@son.petit.cc

キーン・フット・ウェア株式会社

〒150-0035渋谷区鉢山町13-16
【TEL】03-6416-4808
【URL】http://www.keenfootwear.com/ja-jp/

◇ABOUT KEEN　2003年に創設者のローリー・ファーストによって設立。アメリカ・オレゴン州ポートランドに本拠を置き、アウトドアを楽しむ人たちに向けた革新的な商品を提供しています。「サンダルはつま先を守ることができるのだろうか？」この想いと、もの作りに対するチャレンジによって生まれたのが、創業モデルのNewportです。私たちは「アウトドアは屋根のないすべての場所」と考え、様々な人たちがアウトドアに自由に参加することへのサポートのために、KEENのアイテムが役立ってくれることを願っています。

◇HybridLife　≪HybridLife≫とはKEENのスローガンであり、私たちの商品やビジネスでの解決策を創り出し＜CREATE創造する＞、屋根のない場所すべてで遊ぶことの出来るアイテムをデザインし＜PLAY楽しむ＞、お互いを気づかい、周りに広がる世界を気づかう＜CARE気づかう＞という約束です。

◇Hybrid.Care　自然を敬い、他の人に気づかうことは、ごく当たり前のこと。私たちが暮らす地球にとって、ポジティブな変化を創り出すために、パートナーである団体と協力して行なう環境保護活動や社会貢献活動です。

＜越後妻有　大地の芸術祭の里＞　3年に1度開催される世界最大規模の国際芸術祭。《DEAI》Bubb & Gravityfree with KEENとして津南町太田新田の空家をコンバージョンしたアート制作に参加。「越後妻有の林間学校」では、東日本大震災の被災地からの親子参加者を招待するためのサポートを行なっています。来年は第6回開催年。越後妻有「大地の芸術祭の里」http://www.echigo-tsumari.jp/

＜フィリピン災害復興支援活動＞　2013年11月4日に南太平洋で誕生した台風30号は1万人もの命を奪い、多くの家屋を倒壊させました。日米のKEENスタッフと現地NPOスタッフによって3万足ものシューズを被災した人達にプレゼントしました。

＜ビッグイシュー ジャパン＞　販売するホームレスの人たちに靴を提供し、足元からビッグイシュージャパンを支えています。またコラボレーションしたバッグを製作。余り生地を使ったバッグは全て色が違う一点もの。資源を無駄にしないという　《HybridLife》がここでも生かされています。

コリッシュ

colish
CONCEPT×LIFE×SHARE

　コリッシュは、趣味や目的を共有した仲間でシェア生活をはじめたい人のためのポータルサイトです。

　たとえば、ミュージシャン同士でメジャーデビューを目指して するシェアハウスもよし。

　世界を変えるウェブサービスを作りたいエンジニアとマーケターが住むのもよし。

　食を大切にする仲間で一緒に農園を借りながら健康的な食生活を送るのもよし。

　ひとりではなくて、みんなで住むからこそ実現できる楽しいシェアライフを描き、共感した仲間同士で住む。

　そんなシェアライフが増えたら素敵だとcolishは考えます。

【URL】http://colish.net/

コミュニティホーム べてぶくろ

「べてぶくろ」は、「べてる」と「いけぶくろ」をかけた名称です。べてぶくろでは、その「べてる」が大事にしているものを受け継ぎつつ、東京・池袋をスタート地点として、共同住居やグループホームの運営、当事者研究、べてるの商品販売等をはじめ、独自の活動を広げています。

【URL】http://bethelbukuro.jp

池袋あさやけベーカリー

路上生活を経験したり、こころや身体に病気や障がいを持つ仲間と地域のパン屋さん、そしてたくさんの人とつながりはじめたパン屋です。

【URL】http://ameblo.jp/asayakebakery

オリジナル散華（入出証）

製作
社会福祉法人東京都知的障害者育成会
新宿区立高田馬場福祉作業所
〒169-0075 新宿区高田馬場4-10-2
【TEL】03-3367-2939　【FAX】03-3367-2960
【URL】http://www.ikuseikai-tky.or.jp/~iku-takadanobaba/index.html

デザイン
本秀康（漫画家、イラストレーター、チラシデザイン）
鴨井猛（イラストレーター、散華デザイン）

本イベントでは、チケット代わりの出入証として、オリジナルの手漉き紙の散華を作成しました。散華とは、仏さまを供養するときに撒く色とりどりの花びらのことです。

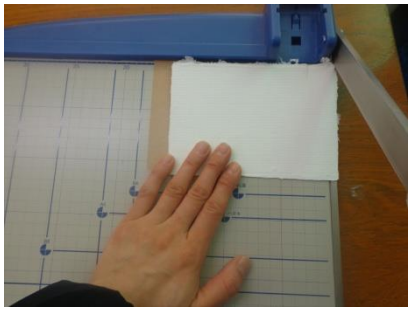
作成は、高田馬場福祉作業所（障害福祉サービス事業／就労継続支援B型）に作業委託しました。作業所がもともと作っていた手漉きのハガキを利用して、そこにカラー印刷を施したものを、作業所の利用者の方々にハサミで一枚ずつ丁寧に花びらの形に切り抜いてもらっています。

散華のもとになった手漉きのハガキは、実は使用済みの牛乳パックからできています。作業所の方々が一枚ずつ、いくつもの工程を重ねて、丁寧におつくりくださった一品です。お持ち帰りになった後は、本のしおりなど、さまざまなご用途にお使いいただければ幸いです。

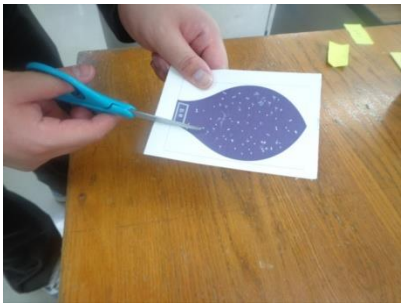
【作業①】牛乳パックから取り出したパルプをミキサーにかけるところ

【作業②】パルプから紙を漉いた後に、水分を絞っているところ

【作業③】紙を葉書サイズ大にしたものを窓ガラスに貼っているところ



【作業④】乾いたパルプを葉書サイズになるように切断しているところ



【作業⑤】葉書に両面カラー印刷したものを、散華の形にハサミで切っているところ

【作業⑥】切り終えて散華の形になったものをストックしているところ

りんりんふぇすサポーター

寄付

光照院（東京都台東区）
龍源寺（東京都港区）
大蓮寺（神奈川県川崎市）
長昌寺（大分県杵築市）
長圓寺（東京都台東区）
本覚寺（青森県今別町）
常行院（千葉県松戸市）
心行寺（東京都府中市）
心光院（東京都港区）
雲上寺（宮城県塩竈市）
正円寺（群馬県沼田市）
安養寺（長野県長野市）
甘露寺（和歌山県紀の川市）
真行院（東京都台東区）

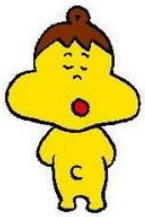
看板・めくり台の書

大善寺（青森県板柳町）

協力

認定NPO法人 ビッグイシュー基金
有限会社ビッグイシュー日本
認定NPO法人
自立生活サポートセンター・もやい
社会慈業委員会 ひとさじの会
浄土宗梅窓院
キーン・フット・ウェア株式会社
コリッシュ
コミュニティホーム べてぶくろ
池袋あさやけベーカリー
高田馬場福祉作業所
公益財団法人 浄土宗ともいき財団
浄土宗新聞

りんりんふぇす2014
出演アーティスト



ソケリッサ

「りんりんふぇすに参加させて頂き、ありがとうございます。心より躍動させて頂きます。我々は過去や未来でなく、今の身体を大切にしています。そこから飛び出すかたまりが心髄響く音楽と共に、生き生きとコダマとなる事を願って」

Gotch

「経済的な格差は広がり続け、政府は弱者の切り捨てに躍起になっています。もちろん、行政がしっかりとしたセイフティーネットを用意するべきだけれど、僕ら市民が手をつないで作る網の目も必要なんだと思います。こぼれ落ちる人がなるべくいないように。このようなイベントに参加できて光栄です」

新倉壮朗（タケオ）

「できることをできるだけして、今を生きたい」

寺尾紗穂

あだち麗三郎クワルテッット

「りんりんふぇすには、最初はceroで、次に片想いで出演しました。毎回、豚汁が美味しかったり、座談会が面白かったり、考えさせられることもあり、非常に充実した時間を過ごしています。今年は、自分のリーダーバンド、あだち麗三郎クワルテッットで出演できて光栄です」

三輪二郎

「労働には助かってる。 労働は恋人。僕のような怠惰なやつは労働でもってるようなもんだ。労働するから音楽が成り立ち、音楽も最近じゃあやっと労働みたいになってきた。今のところ僕の労働に対する考えは呑気とまで言わないがそういうファタジックな感じだ。勿論色々問題も抱えてる。りんりんフェスティバル当日、僕のステージは何かと滲み出るかと思います」

タイムテーブル

●一部公演

14:30～　寺尾紗穂
15:00～　あだち麗三郎クワルテット
15:30～　三輪二郎

●座談会

16:20～　ビッグイシュー座談会

●二部公演

18:00～　ソケリッサ
18:30～　新倉壮朗　（タケオ）
19:00～　Gotch　　※20:00までに完全終了

【THE BIG ISSUE 座談会】

・テーマ
　「幸せになれる住まい」とは？
・パネラー
　寺尾紗穂 ／シンガーソングライター
　稲葉剛　／NPO法人自立生活サポートセンター・もやい理事
　佐野未来／有限会社ビッグイシュー日本　東京事務所マネージャー
・コーディネーター
　吉水岳彦／ひとさじの会代表、大正大学非常勤講師、浄土宗光照院副住職
・ゲスト
　小原憲太郎／colish代表
　ビッグイシュー販売者、他

※皆さまへのお願い※
　当日、ホール内での**飲食は禁止**となっています。会場外もしくはロビーの飲食スペースをご利用くださいますよう、どうかよろしくお願いします。